

Lagrangian point

-パースペクティブカスタマイズ-

石場 文子・多田 圭佑・横山 奈美

2015年6月16日[火] — 6月28日[日] 11:00～19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

オーガナイズ:大崎のぶゆき(愛知県立芸術大学准教授) 主催・企画:愛知県立芸術大学 大崎研究室 協力: Gallery PARC

ラグランジュポイント

- パースペクティブカスタマイズ -

本展は、愛知県立芸術大学油画専攻の在学および卒業生による展覧会として企画したものであり、彼らが日本の中間地点「愛知」という場所で思考したこと、表現しつつあるものを紹介することでその「視点」を考察する試みです。「愛知」にはいわゆる日本のアートシーンにおける「ラグランジュポイント※」として独自の空気感と表現に対する意識が存在しています。それは「西」と「東」の「中間」に位置するという対比構造や地理的条件などの影響をも含め、様々な引力の中間地点とするベクトルが均衡した特殊な「重力場」のようであるといえ、この特徴はこれまで本大学出身者を含めた愛知をルーツとする多くの作家達が活躍する中で注目されるものでしたが、現在ではあまり触れられることがないように感じます。

2回目となる本展では、副題を「パースペクティブカスタマイズ」として絵画や版画を制作する3人の作家を紹介いたします。

横山は大正～昭和初期の「日本の洋画」を想起する重厚な表面を持ちながら、生活の中にある「少し悲しいものたち」を描き出します。

多田は壁面に残るテープやステッカーの痕跡を「絵画」として再構築し、これらの存在について思考する絵画を制作しています。

石場は彼女の日常の中で錯視的に見る「面」に注目し、シルクスクリーンや写真を用いて恣意的にこの視覚に介入する作品を制作しています。

彼らの視点とは絵画や版画といったメディアを基盤に「歴史」「空間」「眼差し」を日々の視点で再構築し、見慣れた風景を新たな風景にカスタマイズして、描くための消失点を見いだそうとする試みであります。

様々な表現がある中で「絵画」や「版画」を基軸に据え、思考する彼らの方法論の中から「ラグランジュポイント」としての魅力を見る事が出来ればと考えています。



石場 文子
ISHIBA AYAKO



多田 圭佑
TADA KEISUKE



横山 奈美
YOKOYAMA NAMI

Lagrangian point

-パースペクティブカスタマイズ-

石場 文子・多田 圭佑・横山 奈美

2015年6月16日[火] — 6月28日[日] 11:00～19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

オーガナイズ:大崎のぶゆき(愛知県立芸術大学准教授) 主催・企画:愛知県立芸術大学 大崎研究室 協力: Gallery PARC

ギャラリー・パルクでは、6月16日[火]から6月28日[日]まで、グループ展「Lagrangian point -パースペクティブカスタマイズ-」を開催いたします。

本展はギャラリー・パルク会場提供による協力展として、愛知県立芸術大学油画専攻の在学および卒業生による展覧会として、同大学准教授である美術作家・大崎のぶゆきのオーガナイズによるもので、昨年に続き2回目の開催となります。

「ラグランジュポイント=天体力学における円制限三体問題の5つの平衡解。いくつかの力(ベクトル)が釣りあった(打ち消しあった)場所」とする本展は、「いまだ未分化とも呼べる「現在進行形」の若い作家達の視点に注目する」ことを趣旨として、彼らが日本の中間地点「愛知」という場所で思考し、表現しつつあるものを紹介することでその「視点」を考察する試みに主眼を置くものです。

2回目となる本展では、その副題を「パースペクティブカスタマイズ」として絵画や版画を制作する3人の作家を紹介いたします。

2014年に京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野を卒業後、2015年より愛知県立芸術大学美術研究科博士課程 油画・版画領域に在籍する石場 文子は、日常の中で錯視的に見る「面」に注目し、シルクスクリーンや写真を用いて恣意的にこの視覚に介入するかのような作品を制作しています。2010年に愛知県立芸術大学を卒業、2012年に同大学博士課程 油画・版画領域を修了した多田圭佑は、たとえば壁面に残るテープやステッカーの痕跡を「絵画」として再構築し、これらの存在について思考する絵画を制作しています。同じく2012年に同大学博士課程 油画・版画領域を修了した横山奈美は、生活の中にある「少し悲しいものたち」の姿を大正～昭和初期の「日本の洋画」を想起する重厚な画面として描き出しています。

彼らの視点とは絵画や版画といったメディウムを基盤に「歴史」「空間」「眼差し」を日々の視点で再構築し、見慣れた風景を新たな風景にカスタマイズして、描くための消失点を見いだそうとする試みでありその未完成さを置いても個々の表現や取り組みには、現在のアートシーンにおける「東京」や「京都」「大阪」といった地の影響の少ない、未だ大きな文脈に位置づけ難い特殊な表現の様相、あるいは様々なベクトルの「中間地点」としての愛知が持つ特性を垣間見ることが出来るのではないのでしょうか。

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 Lagrangian point

ラグランジュポイント -パースペクティブカスタマイズ-

出品作家 石場 文子・多田 圭佑・横山 奈美

会 期 2015年6月16日[火] — 6月28日[日] 11:00～19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

主 催 Gallery PARC

料 金 無料

内 容 ギャラリー・パルク会場提供による協力展として、愛知県立芸術大学油画専攻の在学および卒業生による展覧会として、同大学准教授である美術作家・大崎のぶゆきのオーガナイズによるもので、昨年に続き2回目の開催。石場文子・多田圭佑・横山奈美の3名の若手作家による絵画およそ15点を展示する。

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

ア ク セ ス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル]2F

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

Lagrangian point

-パースペクティブカスタマイズ-

石場 文子・多田 圭佑・横山 奈美

2015年6月16日[火] — 6月28日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

オーガナイズ:大崎のぶゆき(愛知県立芸術大学准教授)

主催・企画:愛知県立芸術大学 大崎研究室

協力: Gallery PARC



《ソファとロケットランチャー》写真(シルクスクリーン、モノクロメタリック) 594x841mm 2015年

石場 文子
ISHIBA AYAKO

意識しているわけでもないのに、ふっと目を引くものが多々あります。それは誰かの服の模様だったり、道に落ちているモノだったり様々ですが、反射的に目がそれらに向きます。その時は色だけが目に入り、それには物質の厚みや重なり、二次元三次元もありません。色が目に入った後で、厚みや重なりなどまわりが見えて、そこでやっと服だと認識するのです。

何かが目を引き、それが〇〇だと認識するまでの時間、もしくは目に入った情報(色)とモノそのものに対して、わたしは何かしらのズレを感じています。そのズレとは一体何なのか、そもそも我々は何をもってモノをモノと見ているのか。虚実の入った風景を提示することで自分たちに見えているモノが何なのかを聞いていきたいです。

- 1991 兵庫県生まれ
- 2014 京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野 卒業
- 2015 愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程 油画・版画領域 在籍

- 個展
- 2013 「House」 KUNST ARZT, 京都

- 主なグループ展
- 2013 「one room」 京都嵯峨芸術大学
 - 2014 「図らずもあったこと」 京都嵯峨芸術大学 「京都嵯峨芸術大学第42回制作展」 京都市美術館 「~2014」 愛知県立芸術大学資料館 「交差する版画 D×PRINTS」 名古屋造形大学
 - 2015 「4つの咀嚼」 愛知県立芸術大学学食2階 「INDIRECT' 15」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー



《exists / wood #1》綿布にアクリル 652mmx530mm x 45mm 2015年

多田 圭佑
TADA KEISUKE

在ることと無いこと、本当と嘘、相反する事柄の間にある曖昧な状態やことに興味があります。フラットなディスプレイの中に広がる情報や現実と見紛う空間 壁面に残るテープやステッカーの痕跡、そこに貼られていたポスターを想像すること。そこに在った、存在した、ということが作品を作っていく切っ掛けになっているのです。その関係性を多方向から示すことは、“存在”とは何かを明らかにする手がかりになると考えるからです。

- 1986 愛知県名古屋生まれ
- 2010 愛知県立芸術大学 美術学部油画専攻卒業
- 2012 愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程 油画・版画領域修了

- おもな個展
- 2007 「多田圭佑 個展」 名古屋造形芸術大学
 - 2008 「independence by mind」 カフェバルト, 愛知
 - 2014 「HE TRACE」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー 「カヤバコーヒー 壁プロジェクト」 カヤバコーヒー, 東京

- 主なグループ展
- 2008 「SEPTEMBER」 市民ギャラリー矢田, 愛知 「ART×ART」 愛知県美術館
 - 2009 「CIRCLE」 愛知県立芸術大学旧教員官舎
 - 2010 「物語りの伏線 part2」 ギャラリーMoMo ryougoku, 東京 「CIRCLE 2」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー 「都市の断片」アーバンリサーチギャラリー, 愛知
 - 2011 「トーキョーワンダーウォール公募 入選者作品展」東京都現代美術館 「DREAMING THE WORLD」 女木ハウス, 香川
 - 2013 「relational map」 STANDING PINE, 愛知 「TRICK-DIMENSION」 TOLOT heuristic SHINONOME, 東京 「CIRCLE 3」 ターナーギャラリー, 東京
 - 2014 「Some Like It Witty」 Gallery EXIT, 香港



《柱》麻布に油彩 455mmx380mm 2015年

横山 奈美
YOKOYAMA NAMİ

中学生の時にプリントニス ピアーズに、高校生の時はキルスティン ダンストに憧れていました。いつも憧れは外国人で、濃い化粧をしてウィッグを被れば、そうなれると思っていました。休日は街へ出てギャルショップに行き、緊張しながらお小遣いでミニスカートとチューブトップを買いました。ゴシップ雑誌を見て化粧を練習しました。頑張りましたが、プリントニスにもキルスティンにもなれませんでした。鏡を見て、なれないのに憧れ続ける自分に何度も落胆しました。現在は、絵画制作をしています。どうしてもない自分と重なり合う、少し悲しいものたちを日常から見つけ出し、それを描いています。そのモチーフが、ただの悲しいものから壮大なものや風景に見える瞬間があります。その瞬間をずっと留めておくために描いています。

- 1986 岐阜県生まれ
- 2010 愛知県立芸術大学 美術学部油画専攻 卒業
- 2012 愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程 油画・版画領域修了

- おもな個展
- 2011 「軽快ないたずら、歪んだ風景」 名古屋市民ギャラリー矢田
 - 2012 「横山奈美 個展」 Hidari Zingaro, 東京
 - 2013 「1=∞の証明」 JIKKA 実家, 東京
 - 2014 「それは山であり、川でもあった。昨日は私自身でもあり、夫でもあった。」 HARMAS GALLERY, 東京 「風景」 GALLERY M contemporary art, 愛知

- おもなグループ展
- 2009 「スーパー・ナチュラル・パワー」 名古屋市民ギャラリー矢田
 - 2010 「1000hinten」 hinten, 愛知
 - 2011 「わくわくSHIBUYA」 トーキョーワンダーサイト渋谷 「petit GEISA#15」 東京都立産業貿易センター 7F 「ワンダーシード2012」 トーキョーワンダーサイト渋谷
 - 2012 「扉を開けたり閉めたり」 TALION GALLERY, 東京
 - 2013 「武蔵江美奈 横山奈美展」 ギャラリーM, 愛知 「Draw the world-世界を描く」 アートラボあいち 「CIRCLE 3」 ターナーギャラリー, 東京
 - 2014 「手探りのリアリズム」 豊田市美術館
 - 2015 「After History」 NADiff a/p/a/r/t, 東京 「VOCA展2015」 上野の森美術館, 東京

受賞
petit GEISA#15 審査員 桑久保徹賞
愛知県立芸術大学2012 作品優秀賞 / 学生優秀賞

パブリックコレクション
愛知県立芸術大学資料館